

2024年度

授業概要

科目名	運動障害性構音障害Ⅰ				授業の種類	演習	講師名	上根 英嗣	
授業回数	15	回	時間数	30	時間	1 単位	必修・選択	必修	配当学年 時期

【授業の目的・ねらい】

運動障害性構音障害の定義と分類、原因疾患とメカニズムおよびその特徴について理解できる。臨床と国家試験に必要な基礎的知識を身につける。

【実務者経験】

言語聴覚士としてツカザキ病院に勤務、急性期、回復期、外来の失語症、高次脳機能障害・嚥下障害・構音障害分野でのリハビリテーションに従事。

【授業全体の内容の概要】

テキストや音声、動画を用いて、運動障害性構音障害の定義と分類、原因疾患とメカニズムおよびその特徴について学び、臨床と国家試験に必要な基礎的知識を身に付ける。

【授業終了時の達成課題（到達目標）】

運動障害性構音障害の定義と分類、原因疾患とメカニズムおよびその特徴について理解し、基礎的な臨床場面の観察や理解、基礎的な国家試験問題を解くことができる。

回数	講義内容	準備物(教材)
1	運動障害性構音障害の定義、障害構造について理解できる。タイプ分類、原因疾患、運動系の障害部位の概要について理解できる。	テキスト
2	発声発語器官の運動機能障害が理解できる。	テキスト
3	聴覚的な発話特徴が理解できる。	CD, テキスト
4	運動系の基礎理解（錐体路系）と障害（錐体路系の障害）が理解できる。	テキスト
5	痙性ディーサスリアの病態特徴と重症度が理解できる。	テキスト
6	運動系の基礎理解（錐体外路）と障害（錐体外路系の障害）が理解できる。	テキスト
7	運動低下性ディーサスリアと運動過多性ディーサスリアの病態特徴と重症度が理解できる。	テキスト
8	運動系の基礎理解（小脳系）と障害（小脳系の障害）が理解できる。	テキスト
9	失調性ディーサスリアの病態特徴と重症度が理解できる。	テキスト
10	運動系の基礎理解（下位運動ニューロン系）と障害（下位運動ニューロン系の障害）が理解できる。	テキスト
11	弛緩性ディーサスリアの病態特徴と重症度が理解できる。	テキスト
12	運動系の基礎理解（筋骨系、脊髄）と障害（筋骨系、脊髄の障害）が理解できる。	テキスト
13	混合性ディーサスリアの病態特徴と重症度が理解できる。	テキスト
14	事例検討	テキスト
15	まとめ	テキスト
	定期筆記試験	

〔使用教科書・教材・参考書〕

【使用教科書 教育 ディサ】
ディサースリア臨床標準テキスト 第2版

【準備學習・時間外學習】

あらかじめテキストを熟読してから授業に臨んでください。
また、授業後の復習も欠かさずに行ってください。

【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】

試験の結果を100点満点として成績を評価する。

試験の結果を100点満点として
試験は定期試験のみ実施とし

試験は定期試験のみ実施とし、60点以上の場合は科目を認定する